

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立第三中学校

1. 本年度の全国学力・学習調査結果の学力の概要について

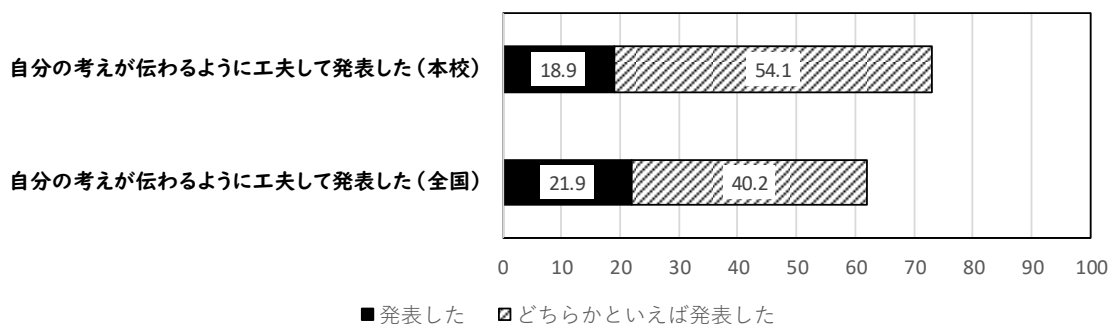
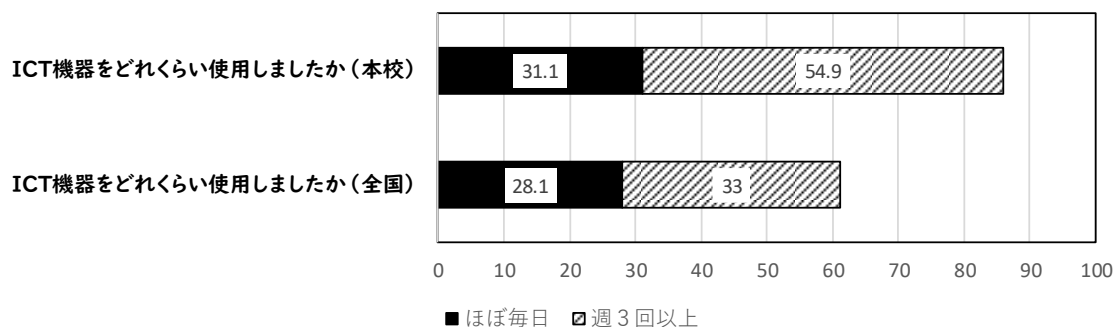
- ・平均正答率は国語・数学・英語、全てで全国比を下回っています。
- ・国語では「知識及び技能」のうち「言葉の特徴や使い方に関する事項」の観点では良好な結果となっているものの、「思考力、判断力、表現力」の観点では課題が残っています。
- ・数学では「データ活用」の分野では突出して良好な結果が出ましたが、「数と式」「図形」「関数」の分野では課題が残る結果となりました。
- ・英語では「聞くこと」の観点では良好な結果が出ましたが、「読むこと」「書くこと」の観点では課題が残ります。

2. 各教科における成果と課題について

	成 果	課 題
国語	知識問題、特に漢字指導を1年生の頃から重点的に行い、毎週の課題を実施してきました。漢字記述問題は全国平均を上回っています。また、言葉を変化させることで文に与えるニュアンスが異なるということを授業の中で意識させることで、結果として「文の一部を直す意図として適切なものを選択する」問題の正答につながったと考えられます。	資料問題における、問題で指し示されている問題文、本文の中身の理解、及び文章表現の効果や基礎的な語句理解が課題です。 複数の資料を読み比べ、それぞれ書かれている内容を比較し、主語と述語の結びつきを整理していく力が必要です。
数学	知識・技能の問題の中でも、特に「決められた階級までの累積度数を求める」問題(問題番号5)に成果が見られました。データの活用の領域では、これまでの学習を意識した系統的な学習を意識した結果、累積度数の問題では全国比を大きく上回っています。	記述式の正答率に課題が見られます。思考力・判断力・表現力を問う問題の中では表現する力がやや弱く、図形の分野(証明)では、自分の考えを表現する場面を多く持つ必要があります。また、関数、図形の領域に関する基礎的な知識の定着にも課題があります。特に復習を重点的に行い、反復した学習が必要です。
英語	英語に苦手意識を持つ生徒が多い中、書くこと「学校生活の中から紹介したいものを説明するまとまりのある文章を書く」問題の正答率が良好でした。1学期を通して、自分の意見についてまとまりのある英文を書く、パフォーマンステストを2回行ったこと、文構造や内容面を重視し辞書の持ち込みをさせたこと、振り返りや再テストを行うことで、ある程度の量を書くことができるようになっていきます。また、「意見→理由→具体例→しめくり」の流れを意識している生徒が増えました。	「聞くこと」「読むこと」にポイントを絞れば、尋ねられたことに対して、答えを導きだすことができているのですが、まとまりのある英文を読んだり、聞いたりして、その概要を捉えることが苦手です。普段の授業で、Teacher Talk を聞かせ、身近な話題について英語で書かれた記事などを読み、わかったことをペアで交流させることを意識したいです。

3. 児童質問紙調査の結果の概要について（肯定的評価の割合）

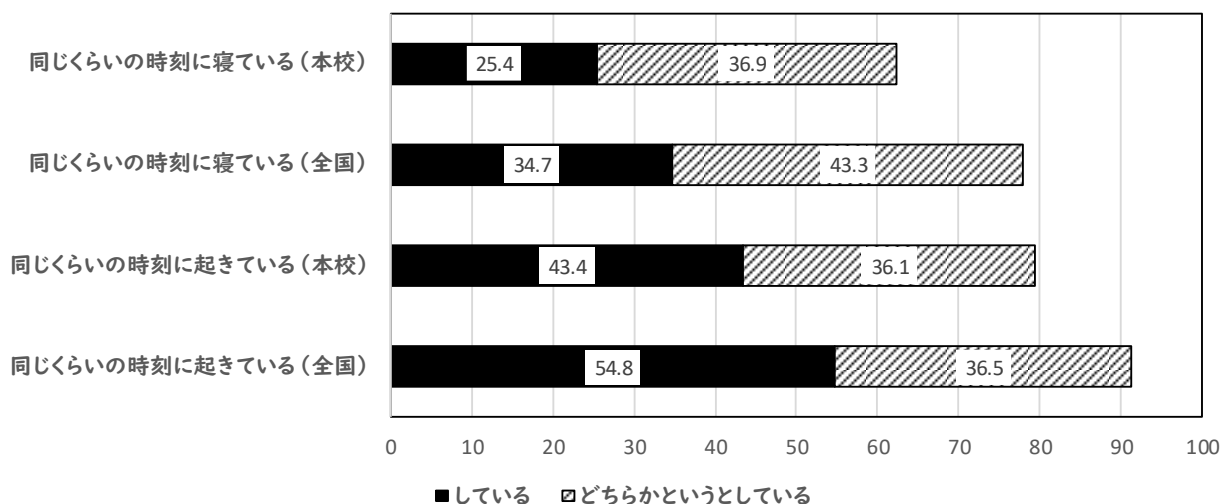
〈取組みの成果があらわれている、または特徴的であると思われる事項について〉



本校ではタブレット端末を普段使いしており、授業の中でも家庭学習でも大いに活用できています。個別最適な学びと協働的な学びができる環境をつくり、紙媒体と併用した電子媒体での学習ツールの使用や記録、情報共有ができています。

また、自分の考えを伝えることに工夫を試みる場面を授業内でつくり、言語活動の充実をはかることができています。

〈今後に向けて、課題と思われる事項について〉



本校生徒の生活リズムは、安定しているとは言えない状況です。特に睡眠時間の確保は、成長発達段階の生徒たちにとって、必要不可欠のものです。「毎日、同じくらいの時間に起きていますか」「毎日、同じ時刻に寝ていますか」という問いに対しては「当てはまる」の回答率が低く、この2つの問いから生徒たちの睡眠時間の不安定さが顕著になっています。

4. 成果と課題を踏まえた今後の取組みについて

調査結果全般から見られる本校の成果として、数学に関しては苦手意識があるものの、国語と英語（語学）に関しては生徒質問紙による「国語（または英語）の勉強は好きですか」「国語（または英語）の授業の内容はよくわかりますか」の設問では肯定的な回答が全国と比べて大きく上回っています。国語や英語を学ぶ意義や、楽しさを伝える授業を意識した成果だと考えられます。また、教育活動のさまざまな場面で言語活動を行っていて、生徒は自分の考えを文章または発表を通じて伝える機会を得ています。

資料（複数の文章や図表など）を比較することには課題があり、これらに関する技能を身につける機会を多く持つ必要があります。

今後、通過率を100%にしていくために、以下の項目を重点的課題として取り組んでまいります。

（1）カリキュラムのマネジメント

新学習指導要領に示されている教育課題を組み入れ、生徒の学びを促すため、総合的な学習の時間を中心に据え、教科等の指導計画を見直し、教科横断的な学びまたは教科の範疇に当てはまらない学びが効果的に行われるよう、様々な方法を試行錯誤しながら工夫をすすめてまいります。

（2）教職員の授業力向上

生徒が直面している課題を、より詳しく見取ることに努め、学習活動において誰一人取り残さない学びをめざし、教職員が授業研究や研修を重ねてまいります。研究授業や研修会を適宜予定し、特に読む力、伝える力の向上のため、どの教科においても音読を活用した授業を展開してまいります。また、学習活動後のふり返りを充実させ、字数制限や条件付き文章表現活動にも継続して取り組んでまいります。

（3）全教科における言語活動を充実

「グループ活動」「全体での話し合い」「ペアワーク」「レポートの書き方」等は、すべての教科や領域において、学習内容を主体的に学び取るために必要であるということを全教職員で再度認識し、効果的な実践を行ってまいります。筋道を立てて考え、相手に伝わる表現を導き出し、自分の言葉で説明することができる授業づくりを行ってまいります。

（4）タブレット端末の活用

Google に搭載されたアプリケーションを活用し、生徒による相互の意見交換や調べ学習、プレゼンテーション資料を作成など、生徒の思考が深まるようなタブレット端末の活用を行ってまいります。また、授業、課題（レポート）、アンケート等、デジタル媒体やリモート機器ならではの活用方法を模索し、実践してまいります。

5. 保護者・児童・生徒のみなさんへ

今年度の全国学力・学習状況調査では、数学と英語で通過率が100%となり、数学では「累積度数の理解をはかる問題」では全国と比べても高い正答率となっています。

これらは、普段から継続して努力している生徒のみなさんの頑張りが結果として現れたものです。繰り返して知識や技能を身につけようとする事は、それらを使う思考、判断、表現の力を高めてくれます。これまで学習してきた基礎的・基本的学力の定着化がはかれているということです。これは、保護者の皆様のご協力のもと、生徒たちが落ち着いた環境で学習することができているおかげでもあります。誠にありがとうございます。

以下は、さらなる発展を目標とし進み続けるうえで、第三中学校生として頑張ってもらいたいことです。

1つめは、規則正しい生活リズムを身につけてください。早寝早起きを習慣化し、栄養と休息をしっかりととりましょう。

2つめは、分からないことを分からないままにしないようにしましょう。先生、友達、保護者の方に遠慮せず質問してください。「聞くは一時の恥。聞かぬは一生の恥。」です。

3つめは、授業へは積極的に参加しましょう。「まず、しっかり考える。自分の意見を臆せず発言する。人の意見を謙虚に聞く。そしてまた考える。その後、自分の考えたことを文章に書いてまとめる。」を実践しましょう。

『“考える”から“交流”して“分かる”と感じたら“楽しい”思いをして“次へつなげる”』というステップで進み続けましょう。

来年3月に一人ひとりがよい卒業式を迎えられるよう、これからも有効で有意義な時間を使ってください。